

## 6. 先端オープン講座（生涯教育講座）に関する事項

平成14年度は、「個人名による受講」と、受講コースの範囲内で何人かのメンバーの方が交互に分担して受講可能な「企業による団体受講」を設け、春季講座（5月11日～7月13日）と秋季講座（10月5日～12月14日）を各週土曜日・10週間（30時間）にわたり開講し（春・秋季講座とも5週間（15時間）の講座も開講）、受講状況は次のとおりであった。

### [春季講座]

| コース別                         | 受講者数<br>( )：内団体受講数 |
|------------------------------|--------------------|
| A：通信ネットワーク                   | 59名(11)            |
| B：システムLSI設計技術                | 9名(2)              |
| C：メディア情報処理とネットワークコンピューティング技術 | 15名(3)             |
| Ca：ネット社会の現状と将来               | 10名                |
| D：通信プロトコル                    | 18名(3)             |
| E：オブジェクト指向とJava技術            | 15名                |
| F：通信プロトコルのマルチメディアへの応用        | 13名(4)             |
| 計                            | 139名               |

(注) 基礎講座A・B・C・Caコース、専門講座D・E・Fコース  
(ただし、Ca・E・Fコースは全5回の講座)

### [秋季講座]

| コース別                         | 受講者数<br>( )：内団体受講数 |
|------------------------------|--------------------|
| A：通信ネットワーク                   | 21名(1)             |
| B：マルチメディアとシステムLSI技術          | 中止                 |
| C：メディア情報処理とネットワークコンピューティング技術 | 7名                 |
| Ca：ネット社会の現状と将来               | 2名                 |
| D：通信プロトコル                    | 29名(2)             |
| E：オブジェクト指向とJava技術            | 11名                |
| F：通信プロトコルのマルチメディアへの応用        | 7名(1)              |
| 計                            | 77名                |

(注) 基礎講座A・B・C・Caコース、専門講座D・E・Fコース  
(ただし、B・Ca・E・Fコースは全5回の講座)

## 7. 専門講習会に関する事項

支部主催、本部支援の専門講習会を次のとおり開催した。

| 支部名 | 題目                         | 開催年月日        | 参加者数 | 場所              |
|-----|----------------------------|--------------|------|-----------------|
| 東北  | 21世紀のロボット技術                | H14.12.20    | 240  | 八戸工業大学AVホール     |
| 信越  | SOHOにおけるネットワークセキュリティの基礎と実習 | H14.11.8     | 21   | 長岡技術科学大学        |
| 東海  | フォトリソグラフィとプロトタイプ           | H15.3.13, 14 | 66   | ルブラ王山           |
| 関西  | ユビキタス・シームレスネットワークの最新動向     | H14.9.6      | 53   | 中央電気倶楽部         |
| 九州  | これからのシステムLSI技術             | H14.11.8     | 64   | 大分大学ベンチャービジネスラボ |

計5回

## 8. 普及啓発活動に関する事項

小・中・高校生を対象とした科学教室

子供の科学離れを防ぐための活動の一環としてこれまで

行ってきたが、14年度も小・中・高校生の科学教室を推進した。

会員及び関連企業の協力の下に次のとおり活動範囲等を拡大しながら実施した。

また、本活動を支えている13年度に設立された「子供の科学教室基金」を長期的、健全に維持するため、14年度から募金活動を開始し、14年度は760名と6社の会員から約312万円の募金協力を得て基金に繰り入れた。

| 題目・講師   | 開催年月            | 参加数 |
|---|-----------------|-----|
| 科学実験教室（科学技術館会場）<br>テーマ：アンテナの不思議<br>実験：アンテナのしくみはどうなっているか確かめよう！<br>講師：羽石 操・木村雄一・齊藤作義（埼玉大）   | H14.4.12        | 27名 |
| 科学実験教室（科学技術館会場）<br>テーマ：音の正体<br>講師：大賀寿郎（芝浦工大）  | H14.5.24        | 17名 |
| 見学会：NHK放送技術研究所<br>講演：デジタル放送<br>講師：三宅 誠（NHK）   | H14.6.22        | 76名 |
| 体験教室（科学技術館）<br>テーマ：インターネットを楽しもう<br>講師：浅見 徹・山崎克之（KDDI研）  | H14.7.20        | 20名 |
| 見学会：NTTデータ観ヶ岡プレゼンテーションスペース<br>INFORIUM  | H14.7.23        | 16名 |
| 見学会：富士通川崎工場と富士通研究所<br>テーマ：情報通信技術の過去・現在・未来<br>講師：持田佑宏（富士通研）  | H14.7.25        | 13名 |
| 体験教室（中央大学理工学部）<br>テーマ：コンピュータグラフィック<br>講師：牧野光則（中大）   | H13.7.30        | 30名 |
| 科学教室（フェライト子ども科学館）<br>テーマ：不思議いっぱい科学の世界<br>講演・体験：① 通信の秘密を探る—携帯電話のしくみを勉強しよう！—<br>② パソコンの頭の中はどうなっているの？—パソコンのしくみ<br>③ コンピュータがコンピュータを作るはなし！<br>体験：コンピュータに挑戦してみよう！<br>④ 図書館が変わる！未来の図書館はどうなるの？<br>—未来の図書館を体験しよう！—<br>⑤ コンピュータグラフィックス<br>講師：池田博昌（東京情報大）、白川 功（阪大）、<br>小山正樹（奈良先端大）、柴山修治・牧野光則（中大） | H14.8.3<br>—8.4 | 37名 |
| 見学会：日本テレコムネットワークサービスセンター<br>テーマ：電話のしくみ<br>講師：寺田浩昭（高知工科大）  | H14.8.7         | 17名 |
| 科学体験教室（大阪大学基礎工学部会場）<br>テーマ：大阪大学基礎工学部システム科学科一日体験入学<br>特別講演：システム工学とは<br>講師：西田正吾（阪大）<br>体験教室：7項目の実習から2つを当日選択して実習<br>① 倒立振り子<br>② 離散アルゴリズムを楽しもう！<br>③ 力学系のシミュレーション<br>④ 機械知能に触れる<br>⑤ ロボットの仕組みを知ろう！<br>⑥ 画像処理の仕組みを知ろう！<br>⑦ インターネットコンピューティングの世界   | H14.8.23        | 48名 |
| 見学会：東芝科学館   | H14.8.27        | 12名 |
| 科学教室（宮崎大会場）<br>テーマ：不思議がいっぱい科学の世界<br>親子で体験してみよう！携帯電話の便利な使い方<br>特別講演：大学ってどんなところ！<br>講師：石塚典彦（宮崎大）<br>体験教室：いろんな携帯を使ってみよう！<br>講師：幸松由紀（J-PHONE）   | H14.9.7         | 18名 |

|  |           |      |
|--|-----------|------|
| 科学教室 (群馬大会場)<br>テーマ: 不思議がいっぱい科学の世界<br>体験教室: 来て、見て、触る! エレクトロニクス体験教室?<br>① 昆虫など身近なものをミクロな顕微鏡で見よう<br>② 光る楽しい電子工作<br>③ どこでもスピーカー?!<br>④ 太陽電池の作製<br>⑤ 光と電子の楽しい実験<br>講師: 保坂純男・山越芳樹・石川赴夫・佐々木義智・花泉 修 (群馬大)   | H14.9.7   | 54 名 |
| 科学教室 (東工大会場)<br>テーマ: 不思議がいっぱい科学の世界<br>特別講演: パーチャルリアリティってなあに?<br>体験教室: 仮想空間を体験してみよう!<br>講師: 中嶋正之 (東工大)  | H14.9.28  | 27 名 |
| 科学教室 (中央大会場)<br>テーマ: 人にやさしい技術と道具<br>特別講演: ひみつの話<br>講師: 趙 晋輝 (中大)<br>体験教室: 大学ってどんなところかのぞいてみよう!<br>講師: 稲葉次紀・白井 宏・杉本泰博・柴山修治・國井康晴・今井桂子・牧野光則 (中大)   | H14.11.3  | 69 名 |
| 高校生の科学教室 (東京大会場)<br>テーマ: 大学ってどんなところかのぞいてみよう!<br>特別講演: 大学ってどんなところ!<br>講師: 安田 浩 (東大)<br>見学・体験教室: 画像で遊ぼう!<br>講師: 青木輝勝 (東大)  | H14.12.18 | 17 名 |
| 科学教室 (富山県立大会場)<br>テーマ: 不思議がいっぱい科学の世界<br>実験・体験教室: 「電波とデジタルの世界を体験しよう!」<br>2コースに分かれて実験・体験<br>① 「コンピュータのしくみ」<br>② 「電波の不思議」<br>講師: 中野徹夫・岡田敏美 (富山県立大)  | H15.1.26  | 86 名 |
| 科学教室 (沖縄会場)<br>テーマ: 不思議がいっぱい科学の世界<br>講演・体験: 沖縄の子供たちへ<br>① 技術の歴史<br>② パソコンの頭の中はどうなっているの? —パソコンのしくみ<br>③ コンピュータがコンピュータを作るはなし!<br>体験: コンピュータに挑戦してみよう!<br>④ 図書館が変わる! 未来の図書館はどうなるの? —未来の図書館を体験しよう!<br>講師: 翁長健治 (デジタル社会総合研), 白川 功 (阪大), 小山正樹 (奈良先端大), 藤田庄司・柴山修治 (中大) | H15.3.1   | 40 名 |

18 回 624 名

## 9. 学生事業に関する事項

### 9.1 会誌「学生会報告」欄の掲載記事

各支部学生会の活動状況等を会誌「学生会報告」欄に掲載した。

- 平成 14 年 7 月号: 平成 13 年度各支部学生会事業報告
- 平成 15 年 2 月号: 各支部学生会員の感想

### 9.2 学生会員の入会勧誘

各支部に入会勧誘のために PR 用資料として、「ポスター」と宣伝を兼ねた「学生用入会申込書」をそれぞれ配布した。

また、各支部において学生会員増強基金を利用した学生会員勧誘が行われた。

### 9.3 学生へ情報小冊子の配布

学生への情報小冊子「学生の皆さんへ」を 10,500 部作成し、年 2 回学生会員及び各支部へ配布した。特に卒業 (修了) 予定の学生に対して会員資格手続きの早期連絡を行った。

### 9.4 Student Branch (仮称) について

Student Branch の設置・運営について各支部に意見を求め、会員増強委員会と連携して検討を開始した。

## 10. 検討部会に関する事項

### 10.1 学会提言について

平成 13 年 1 月 29 日に学会から社会への提言として、「21 世紀 IT 社会の健全な発展に向けて」を行った際の約束の一つ (IT と社会システムの融合へ向けての施策促進) で、「高等教育機関におけるネットワーク運用ガイドライン (第一版)」を作成し、平成 15 年 1 月 29 日に内閣官房「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部」及び「文部科学省」へ報告し (本会・情報処理学会・電気学会の 3 学会長名で)、翌 30 日には記者発表も実施した。

15 年度からは企画室の下に「ネットワーク運用ガイドライン検討 WG」を設置して、①社会も含めたインターネット等サイバースペース上の各種問題への対応案作成、②初等・中等教育機関向けのガイドライン策定、③ガイドラインの普及活動、④運用マニュアルの作成、⑤ガイドライン第二版の策定。ただし、①~④については、検討の要否及び内容について議論し決定することになっている。

### 10.2 技術者教育認定制度について

「認定企画実施委員会 (APC): 秋山稔委員長」において、JABEE (日本技術者教育認定機構) 及び関連学会と連携をとりながらプログラム並びにカリキュラムの具現化、マニュアルの整備、審査員の養成 (JABEE 審査員養成研修会に参加、及び自主研修会を 2 回実施; 参加者合わせて約 200 名)、受審する立場に立っての仮想プログラムのひな形モデルを示したシンポジウム (15 年 3 月総合大会特別企画) の開催等を行った。

### 10.3 著作権規程の制定について

著作権規程制定委員会において著者の利便性を損なわないように考慮した「著作権規程」及び「本会著作権規程の解説と具体例」を作成した。更に著作権関連事項を今後継続的にウォッチしていく機関として 15 年度から「著作権管理委員会」を設置することとした。

### 10.4 学会の電子化について

ホームページの充実 (イベントカレンダー、各種届出用紙、教官募集案内、維持員の会社紹介へのリンク等)・刷新をするとともに、ウイルスチェック及び情報の漏えいを防ぐためのセキュリティの強化を行った。英文化についても順次進める。論文の電子投稿システムの構築を更に進めている。

### 10.5 他学会との連携について

電気・情報関連 5 学会 (本会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、情報処理学会) が外国の大学会に対抗するための大同団結を検討する「アンブレラ型機構の在り方タスクフォース」と合同の英文論文誌発行について検討する「国際的情報発信源の可能性タスクフォース」の二つのタスクフォースで検討を行い、合同英文論文誌の発行形態、学会のプレゼンスの高揚、社会的貢献を具体化するため、今後は「電気・情報関連学会連絡協議会」を設立して検討することとした。

情報・システムソサイエティは、ソサイエティ大会に代るものとして情報処理学会と共催で「情報科学技術フォーラム (FIT)」を 14 年 9 月 25 ~ 28 日の 4 日間東工大で開催した。

### 10.6 グローバル化について

国際委員会において、学会のグローバル化の一環として、海外地域代表者制度によるアジア 4 地域に海外地域代表者を指名し、海外地域代表者が当該地域において講演会等を企画・実施することに協力するとともに、本学会活動の周知・宣伝に努めることを開始した。第 1 回地域代表者会議として、東北大学で開催した総合大会の 3 月 21 日に、タイペイ、北京、